

火災検知だけでは限界も 新たな市場創造に強い意欲

陶芸機器販売の(株)アンテック（瀬戸内市）が、国内初となる屋内外両用の火災報知機を発売して1年が経過。末石建二社長は「次世代センサーとして受け入れられるには、火災報知機の枠にとどまらず、新たな市場を創造していくしかない」と語る。

太陽光に反応せず、炎に含まれる紫外線だけを検知。世界最小サイズも訴求し、これまで約1000台を販売。大手テーマパークや「愛・地球博」での採用実績もあるが、現在主流の煙・熱検知型に比べて価格競争力が劣るのが難点。セキュリティ業界からの反応もいまひとつだという。



末石建二氏

10月から、独立行政法人の物質・材料研究機構（茨城県つくば市）との共同開発を開始。火災検知以外の用途拡大への期待も高まる。もともと、陶芸用の燃料自動停止装置をヒントに開発したもののだが、「紫外線漏れを検知し、事故や犯罪を防止する研究を進めている最中」と言う。

平成17年11月21日

Vision岡山